

大正期の音楽誌における西洋クラシック音楽の 作曲家に関する記事目録（その3）

Biographical Information on Western Classical Music Composers in Japanese
Music Journals During the Taisho Period (1912–1926): A List of Articles (Volume 3)

MATSUMURA, Yoichiro

松村 洋一郎

共通教育科目非常勤講師

抄録：

筆者は、明治・大正期に様々な雑誌に掲載された西洋クラシック音楽の作曲家の伝記情報に関する調査を継続して行っている。本稿はその一部であり、大正期の音楽誌（『音楽新潮』など14誌を対象とした）に掲載された、作曲家の伝記情報を扱った記事情報をまとめたものである。今後、大正期の音楽誌全体に関する調査を終えた際に、ここに収録した記事情報も加えて分析を行う予定である。

Abstract：

The author is conducting ongoing research regarding biographical information on Western classical music composers presented in articles of the Meiji/Taisho period. This paper is a part of this research and covers articles containing composers' biographical information in music journals during the Taisho period, including 14 journals such as *Ongaku shincho* (New Trends in Music). In the future, after finishing research on complete music journals of the Taisho period, the author plans to analyze these articles together with the article information listed here.

キーワード：伝記情報、作曲家、音楽雑誌、大正期、記事目録

Keywords：biographical information, composer, music journal, Taisho period, article list

筆者は、明治・大正期の様々な雑誌に掲載された作曲家の伝記情報に関する調査を行っており、一部は発表済である（松村 2016, 2017a, 2017b, 2018a, 2018b）。本稿もその調査の一貫

であり、大正期の音楽誌に掲載された、作曲家の伝記情報に関する記事をまとめたものである。なお、本調査の背景のひとつには、音楽誌の記事情報の整理・発表が遅れている現状がある。具体的には、別稿の紹介記事（松村 2018c）を参照されたい。

現在、大正期の雑誌の記事情報に関する最も網羅的なデータベースとして、「雑誌記事索引集成データベース」（皓星社）があるが、本稿で対象とした雑誌⁽¹⁾の記事を検索したところ、『楽星』誌の記事のみ（NDL〔国立国会図書館〕デジタルコレクションのデータ 227 件）が収録されている状況であった（2018 年 10 月 21 日現在）。本稿の刊行以降、他誌の記事情報の提供を行う予定である。

■参考文献など（著者アルファベット順）

井上和男 編 2009. 『クラシック音楽作品名辞典 第3版』 東京：三省堂.

皓星社. 「雑誌記事索引集成データベース」（有料データベース, 2018 年 10 月 21 日最終アクセス）.

松村洋一郎 2016. 「明治・大正期の雑誌（音楽誌を除く）における西洋クラシック音楽の作曲家に関する伝記情報 その1」『国立音楽大学研究紀要』第50集, 219-228 頁. / 松村洋一郎 2017a. 「明治・大正期の雑誌（音楽誌を除く）における西洋クラシック音楽の作曲家に関する伝記情報（その2）記事目録と分析」『音楽研究 国立音楽大学大学院研究年報』第29集, 33-49 頁.

松村洋一郎 2017b. 「明治期の音楽雑誌における西洋クラシック音楽の作曲家に関する記事目録」『国立音楽大学研究紀要』第51集, 225-236 頁.

松村洋一郎 2018a. 「大正期の音楽誌における西洋クラシック音楽の作曲家に関する記事目録（その1）」『実践女子大学短期大学部紀要』第39号, 139-156 頁. / 松村洋一郎 2018b. 「大正期の音楽誌における西洋クラシック音楽の作曲家に関する記事目録（その2）」『教育学研究紀要』（大東文化大学）第9号, 79-94 頁.

松村洋一郎 2018c. 「紹介 東京藝術大学付属図書館監修『戦前期レコード音楽雑誌記事索引』」『音楽学』第63巻2号, 159-160 頁.

音楽関係逐次刊行物所在目録1992年版編集委員会 編 1993. 『音楽関係逐次刊行物所在目録1992年版』 東京：音楽図書館協議会.

目録 大正期の音楽誌に掲載された西洋芸術音楽の作曲家に関する記事（その3）

- ・本目録は、大正期の音楽誌に掲載された西洋芸術音楽の作曲家に関する記事のうち、本稿執筆の時点で現物を確認した記事を一覧にしたものである。ここでは、『クラシック音楽作品名辞典 第3版』（井上 2009）で立項されている人物を「作曲家」として扱った。
- ・調査対象の誌名、巻号は以下の通り（誌名アルファベット順）。1行目に刊行時期および巻号

を、その下に調査した巻号を記した。

- ・誌名の前に※があるものは、上述の目録にはないが音楽誌と判断した雑誌である。
- ・所在目録（音楽関係逐次刊行物所在目録 1992 年版編集委員会 1993）と異なる情報のうち、閲覧にあたって有用と思われる所在情報は註に記した。
- ・タイトルに具体的な作品名を含む記事であっても、本文でその作曲家に言及がない場合は収録の対象外とした。
- ・紙数の都合上、そのほかの編集方針は既発表の目録と同様であるため割愛した。詳しくは別稿（松村 2018a, 2018b）を参照のこと。また、同様の理由により、連載記事に関してはまとめて記した。

- ・楽譜クラブ⁽²⁾ 61号（大9.1）- 東京：共益商社書店 継続前誌：カード楽譜
61 [1920]-69, 71-76, 78-80, 82-83, 86[1923]
- ・楽星 1巻1号（大14.7）- 東京：楽星社→岡田日栄堂
1 [1925]-2 [1926]
- ・※カード楽譜⁽³⁾ 1号（大4.1）- 東京：共益商社書店 継続後誌：楽譜クラブ
1 [1915], 3, 10, 21-22, 24-25, 31, 42[1918]
- ・歌劇⁽⁴⁾ 1号（大7.8）- 大阪：阪神急行電鉄→宝塚：宝塚少女歌劇団→宝塚歌劇団→阪急電鉄株式会社コミュニケーション事業部→東京：阪急コミュニケーションズ
1 [1918]-81 [1926]
- ・※家庭音楽⁽⁵⁾ 東京：大日本家庭音楽会
65[1921]
- ・音楽⁽⁶⁾ [1巻] 1号（[明43.1]）-13巻12号（大11.12）；1号（大12.3）-[20]（昭15.1） 東京：共益商社楽器店→目黒書店→東京音楽学校学友会
3 (8-12) [1912]-13 [1922] ; 1 [1923] -6[1926]
- ・音楽グラフ 1巻1号（大12.5）- 東京：培風館→音楽グラフ社
1 (1-5) [1923], 2-4 [1926]
- ・音楽新潮⁽⁷⁾ ⁽⁸⁾ 1巻1号（大13.2）-18（昭16.10） 東京：音楽新潮発行所 継続後誌：音楽公論
1 [1924]-3 [1926]
- ・音楽商法 （大12.12）-（昭16） 東京：音楽商法社 継続後誌：音楽之友
3 (3) [1925]
- ・音声学会会報 1号（大15.10-11）-74/75号（昭18.12） 東京：音声学協会
1 [1926]
- ・オペラ：演劇・音楽・舞踊⁽⁹⁾ 東京：活動倶楽部社
2 [1919] ; 1 (3) [1919], 2 (3-5, 7), 3 (1-2, 5-7, 9, 11), 4 (1-8, 10-12), 5 (2-9),
6 (6-8, 11) [1924]

・ラミュジカ⁽¹⁰⁾ 創刊号 (大12.1)- 東京：仏蘭西書院

1 [1923]-3 [1923]

・最新教材遊戯と唱歌 (大15.6)-16巻5号 (昭16.5) 東京：大正書院 継続後誌：国民舞踊

1 (6-7) [1926]

・大陸の音楽 1号 (大13.5)- [出版地不明]：大陸の音楽社

1 [1924]

■パレストリーナ, ジョヴァンニ・ピエルルイーダ Palestrina, Giovanni Pierluigi da (1525/26-1594)

吉野清吉「楽聖パレストリーナ」『音楽新潮』第3巻第6号 (大正15年6月), 12-16頁.

■リュリ, ジャン＝バティスト Lully, Jean-Baptiste (1632-1687)

藤木義輔「ルイ十四世王朝とリュリの音楽」『音楽新潮』第3巻第4号 (大正15年4月), 14-18頁.

■パーセル, ヘンリー Purcell, Henry (1659-1695)

吉野清吉「英国音楽とパーセル」『音楽新潮』第3巻第7号 (大正15年7月), 16-20頁.

■ラモー, ジャン＝フィリップ Rameau, Jean-Philippe (1683-1764)

吉野清吉「ラモオと其の時代」『音楽新潮』第3巻第5号 (大正15年5月), 11-15頁.

■ヘンデル, ジョージ・フリデリック Händel, George Frideric (1685-1759)

呂満浪蘭「楽界逸事 ヘンデル物語」『オペラ』第3巻第1号 (大正10年1月), 40-41頁.

ロマン、ローラン「ヘンデル」金井満 [訳]『ラミュジカ』創刊号 (大正12年1月), 4-6頁.

／ロマン ローラン「ヘンデル (二)」金井満 [訳]『ラミュジカ』第2号 (大正12年2月), 13-16頁. /ロマン・ローラン「ヘンデル (第三回)」金井満訳『ラミュジカ』第3号 (大正12年3月), 6-10頁.

法月歌客「ヘンデルと愛人」『オペラ』第5巻第3号 (大正12年3月), 21-23頁.

木村生「音楽戯曲 屋根裏のヘンデル (四場)」『音楽グラフ』第3巻第2号 (大正14年2月),

16-17頁. /木村生「音楽戯曲 屋根裏のヘンデル」『音楽グラフ』第3巻第3号 (大正14年3月), 14-15頁.

小泉治「水の音楽」『音楽グラフ』第3巻第8号 (大正14年8月), 2-5頁.

■バッハ, ヨハン・ゼバスティアン Bach, Johann Sebastian (1685-1750)

柿沼太郎「バッハとヴァイオリン」『音楽グラフ』第4巻第8号 (大正15年8月), 11-12頁.

小野敏夫「バッハのオーケストラ曲に就て」『音楽新潮』第3巻第10号 (大正15年10月), 13-16頁.

小野敏夫「ヴァイオリニストとしてのバッハ」『音楽新潮』第3巻第12号 (大正15年12月), 18-21頁.

■タルティーニ, ジュゼッペ Tartini, Giuseppe (1692-1770)

柿沼太郎「タルティーニと悪魔のトリル」『音楽グラフ』第4巻第11号 (大正15年11月), 4-5頁.

■ペルゴレージ, ジョヴァンニ・バッティスタ Pergolesi, Giovanni Battista (1710-1736)

山内透「ペルゴレージ」『音楽新潮』第3巻第11号(大正15年11月), 32-34頁.

■ハイドン, ヨーゼフ Haydn, Joseph (1732-1809)

編輯小伝「音楽大家略伝(1)ハイドン」『大陸の音楽』創刊号(大正13年5月), 41-42頁.

編集者「今月の楽譜解説 ハイドンのト長調『驚愕』交響曲」『楽星』第2巻第8号(大正15年8月), 44-47頁.

■サリエーリ, アントーニオ Salieri, Antonio (1750-1825)

プーシユキン「モツアルトとサリエーリ」平井肇訳『音楽グラフ』第3巻第5号(大正14年5月), 8-10頁. / プーシユキン「モツアルトとサリエーリ」平井肇訳『音楽グラフ』第3巻第6号(大正14年6月), 7-8頁.

■モーツァルト, ヴォルフガング・アマデーウス Mozart, Wolfgang Amadeus (1756-91)

三好春之助「ウオルフガング・アマデウス・モツアルトの話」『オペラ』第6巻第11号(大正13年11月), 38-39頁.

プーシユキン「モツアルトとサリエーリ」平井肇訳『音楽グラフ』第3巻第5号(大正14年5月), 8-10頁. / プーシユキン「モツアルトとサリエーリ」平井肇訳『音楽グラフ』第3巻第6号(大正14年6月), 7-8頁.

大沼魯夫「楽聖モツアルトの逸事」『音楽グラフ』第3巻第12号(大正14年12月), 5-7頁.

門馬生「交響曲説解(1)モーツァルトのニ長調(メヌエツトなし)」『楽星』第2巻第7号(大正15年7月), 79-81頁.

桂近乎「モーツァルトの愛の生活」『楽星』第2巻第9号(大正15年9月), 18-24頁.

門馬生「交響曲説解(2)モーツァルトのト短調」『楽星』第2巻第9号(大正15年9月), 45-48頁.

■ルージェ・ド・リール, クロード＝ジョゼフ Rouget de Lisle, Claude-Joseph (1760-1836)

丹澤「国歌の由来 その二、仏国々歌『Le Marseillaise』」『オペラ』第2巻第5号(大正9年5月), 52-53頁.

■ケルビーニ, ルイージ Cherubini, Luigi (1760-1842)

藤木義輔「宗教楽に救はれたケルビーニ」『音楽新潮』第3巻第7号(大正15年7月), 8-12, 20頁.

■ベートーヴェン, ルートヴィヒ・ヴァン Beethoven, Ludwig van (1770-1827)

正木寿雄「東京より妹へ!『ベートーゼン』に就て……」『歌劇』第3号(大正8年1月), 26-28頁.

「楽聖ベートーフェン百五十年祭記念音楽会の記!!!」『家庭音楽』第65号(大正10年1月), 17-18頁.

小生夢坊「ベートーヴェンの悲愴曲」『オペラ』第4巻第4号(大正11年4月), 32-33頁.

編集部「新人としての楽聖ベートーベン」『楽譜クラブ』第74号(大正11年5月), 19-23頁.

「ベートーフェンの手紙」有賀喜左衛門[訳]『ラミュジカ』創刊号(大正12年1月), 11-12頁.

エクトル・ベルリオーズ「第七シンフォニーの批判的研究」尾崎喜八訳『ラミュジカ』第2号 (大正12年2月), 1-3頁.

「ベートーベンよりゲーテに送れる手紙」矢内博訳『ラミュジカ』第2号 (大正12年2月), 18-19頁.

エクトル・ベルリオーズ「第八シンフォニーの批判的研究」尾崎喜八訳『ラミュジカ』第3号 (大正12年3月), 1-2頁.

エクトル・ベルリオーズ「第四シンフォニーの批判的研究」尾崎喜八訳『ラミュジカ』第3号 (大正12年3月), 2-3頁.

「ベトオフェンの手紙」矢内博訳『ラミュジカ』第3号 (大正12年3月), 29-30頁.

柿沼太郎「ベートーゼンの日常生活」『音楽グラフ』第1巻第1号 (大正12年5月), 2-3頁.

柿沼太郎「友人の見たベートーゼン (一)」『音楽新潮』創刊号 (大正13年2月), 14-18頁. /

柿沼太郎「友人の見たベートーゼン (二)」『音楽新潮』第1巻第2号 (大正13年3月),

35-38頁. / 柿沼太郎「友人の見たベートーゼン (三)」『音楽新潮』第1巻第4号 (大正13年5月), 39-41頁.

南部修太郎「倫敦に於ける第九交響楽の演奏」『音楽新潮』第1巻第10号 (大正13年11月), 27-32頁.

増沢健美「ベートーベンの人相と風態」『音楽グラフ』第3巻第1号 (大正14年1月), 9-10頁.

佐藤昌「ベートーゼンと蔵書」『音楽新潮』第2巻第5号 (大正14年5月), 22-24頁.

中西武夫「ベートーゼン礼賛」『音楽新潮』第2巻第6号 (大正14年6月), 34-37頁.

堀内敬三「名曲解説 序楽四曲」『楽星』第1巻第6号 (大正14年12月), 5-9頁.⁽¹¹⁾

佐藤昌「月光曲について」『音楽新潮』第3巻第2号 (大正15年2月), 9-14頁.

「ベートーゼン愛賞の地」『音楽新潮』第3巻第3号 (大正15年3月), 2-3頁.

牛山充「ベートーゼンと楽曲捧呈」『音楽新潮』第3巻第3号 (大正15年3月), 4-6頁.

藤木義輔「黄昏から夜へ ベートーゼン最後の頁」『音楽新潮』第3巻第3号 (大正15年3月), 7-12頁.

中野孝「洋琴家としてのベートーゼン」『音楽新潮』第3巻第3号 (大正15年3月), 13-17頁.

幡谷正雄「ベートーゼンと久遠の女性」『音楽新潮』第3巻第3号 (大正15年3月), 18-25頁.

佐藤昌「ベートーゼン研究書について」『音楽新潮』第3巻第3号 (大正15年3月), 29-32頁.

吉野清吉「ラ・ラブソディー・ベトゾニック」『音楽新潮』第3巻第3号 (大正15年3月), 33-37頁.

柿沼太郎「ベートーゼンの功績」『音楽新潮』第3巻第3号 (大正15年3月), 38-40頁.

山田辰弥「ベートーゼンレコード」『音楽新潮』第3巻第3号 (大正15年3月), 41-47頁.

文三「ベートーゼンと久野久子女史」『音楽新潮』第3巻第3号 (大正15年3月), 48-49頁.

「ベートーヴェン断想」三瀧末松訳『楽星』第2巻第3号 (大正15年3月), 1-3頁.

アイザックソン「楽聖ベートーベンの後年」村上一郎 [訳]『音楽グラフ』第4巻第3号 (大正15年3月), 11-14頁. / アイザックソン「楽聖ベートーベンの後年 (前の続き)」村上 [一

郎] 訳『音楽グラフ』第4巻第4号(大正15年4月), 12-14頁.

伊東澄子「歌劇フィデリオ」『音楽新潮』第3巻第7号(大正15年7月), 13-15頁.

編集局解説「ヴァイオリン曲説解(1) Beethoven; Sonata Nr.9 (Kraezersonota)」『楽星』第2巻第7号(大正15年7月), 74-76頁.

■オベール, ダニエル=フランソワ=エスプリ Auber, Daniel-François-Esprit (1782-1871)

寺川信「歌劇名曲物語(一)」『歌劇』第26号(大正11年5月), 24-26頁.⁽¹²⁾

■パガニーニ, ニコロ Paganini, Nicolò (1782-1840)

行田乙重「パガニーニ」『ラミュジカ』第3号(大正12年3月), 25-26頁.

吉野清吉「パガニーニとベルリオーズ」『音楽新潮』第3巻第8号(大正15年8月), 9-12頁.

■ヴェーバー, カール・マリーア・フォン Weber, Carl Maria von (1786-1826)

藤木義輔「露西亞バレエ抄(四)」『音楽新潮』第1巻第6号(大正13年7月), 22-27頁.⁽¹³⁾

堀内敬三「名曲解説 序楽四曲」『楽星』第1巻第6号(大正14年12月), 5-9頁.⁽¹¹⁾

柿沼太郎「ウェーバアのこと」『音楽新潮』第3巻第9号(大正15年9月), 2-7頁.

藤木義輔「諸大家の見たウェーバアの歌劇」『音楽新潮』第3巻第9号(大正15年9月), 8-12頁.

吉野清吉「ウェーバアと文筆」『音楽新潮』第3巻第9号(大正15年9月), 16-19頁.

柿沼太郎「ウェーバアの作品に就て」『音楽新潮』第3巻第9号(大正15年9月), 20-25頁.

山田辰弥「ウェーバアに関する文献とレコード」『音楽新潮』第3巻第9号(大正15年9月), 28-29, 25頁.

■ロッシーニ, ジョアキーノ Rossini, Gioachino (1792-1868)

服部劉太「名歌劇梗概(二)『セザラの理髪師』」『オペラ』第4巻第1号(大正11年1月), 64-67頁.

百瀬晋「ロッシーニとワグナーの会見 アルフレード・テストーニの戯曲から」『オペラ』第6巻第11号(大正13年11月), 24-29頁.

堀内敬三「名曲解説 序楽四曲」『楽星』第1巻第6号(大正14年12月), 5-9頁.⁽¹¹⁾

■シューベルト, フランツ Schubert, Franz (1797-1828)

辻莊一「シユウベルト礼賛」『音楽新潮』創刊号(大正13年2月), 27-31頁.

編集者「今月の楽譜解説 シューベルトの口短調『未完成』交響曲全部」『楽星』第2巻第7号(大正15年7月), 69-71, 76頁.

営業部「歌曲解説(1) Aufenthalt (Schubert)」『楽星』第2巻第7号(大正15年7月), 77-78頁.

営業部編「歌曲解説(2) Der Lindenbaum by Franz Schubert」『楽星』第2巻第8号(大正15年8月), 50-51頁.

■ドニゼッティ, ガエターノ Donizetti, Gaetano (1797-1848)

牛山充「歌劇物語 六、『ラマームーアのルチーア』(三幕物悲歌劇)——ドニツェッティ作曲」『音楽』第5巻第9号(大正3年9月), 改85-改112頁.

■ベルリオーズ, エクトール Berlioz, Hector (1803-1869)

エクトル・ベルリオーズ「第七シンフォニーの批判的研究」尾崎喜八訳『ラミュジカ』第2号 (大正12年2月), 1-3頁.

エクトル・ベルリオーズ「第八シンフォニーの批判的研究」尾崎喜八訳『ラミュジカ』第3号 (大正12年3月), 1-2頁.

エクトル・ベルリオーズ「第四シンフォニーの批判的研究」尾崎喜八訳『ラミュジカ』第3号 (大正12年3月), 2-3頁.

ロベルト・シューマン「ベルリオの『ウェーブリー』序楽」尾崎喜八訳『ラミュジカ』第3号 (大正12年3月), 21-22頁.

「ベルリオの初恋 ベルリオの思ひ出から」藤木義輔 [訳]『音楽新潮』第2巻第1号 (大正14年1月), 29-32頁.

堀内敬三「仏蘭西名曲解説 (その一)」『楽星』第1巻第3号 (大正14年9月), 14-18頁.⁽¹⁴⁾

吉野清吉「パガニーニとベルリオーズ」『音楽新潮』第3巻第8号 (大正15年8月), 9-12頁.

「ベルリオーズの『思ひ出』から」吉野清吉訳『音楽新潮』第3巻第12号 (大正15年12月), 22-26頁.

■メンデルスゾーン, フェーリクス Mendelssohn, Felix (1809-47)

「フロオレンスから メンデルスゾーンの南欧消息」西村貞 [訳]『音楽新潮』第1巻第3号 (大正13年4月), 25-28頁. / 「ローマとヴェニスから メンデルスゾーンの南欧消息」西村貞 [訳]『音楽新潮』第1巻第5号 (大正13年6月), 24-27頁. / 「メンデルスゾーン南欧の旅より」西村貞訳『音楽新潮』第3巻第8号 (大正15年8月), 38-39頁.

編集局解説「ヴァイオリン曲説解 (2) Mendelssohn; Concerto in E minor for Violin and Orchestra」『楽星』第2巻第8号 (大正15年8月), 48-49, 52頁.

村上一郎「ゴンドラ舟の歌」『音楽グラフ』第4巻第8号 (大正15年8月), 5-8頁.⁽¹⁵⁾

■ショパン, フリデリク Chopin, Fryderyk (1810-49)

獺与太平「失恋せる天才 ショパンのこと (下)」『オペラ』第2巻第7号 (大正9年7月), 21-23頁.

日金魚子「楽星ショパンの恋愛日記抄」『オペラ』第3巻第5号 (大正10年5月), 60-65, 67頁.

アシトン・ジョンソン「ショパンの前奏曲 (作品二十八番) の解」河原宏訳『ラミュジカ』第2号 (大正12年2月), 16-18頁.

柿沼太郎「ショパンの面影」『音楽グラフ』第1巻第2号 (大正12年6月), 2-3頁.

増沢健美「ピアニストとしてのショパン」『音楽新潮』創刊号 (大正13年2月), 32-37頁.

「ショパンの思ひ出」『音楽新潮』第2巻第4号 (大正14年4月), 18-19頁.

■ニコライ, オットー Nicolai, Otto (1810-1849)

牛山充「歌劇物語八『ウキンザーの陽気な女房達』(三幕物幻想的喜歌劇) ——オットー・ニコライ作曲」『音楽』第6巻第3号 (大正4年3月), 改131-改150頁.

■シューマン、ローベルト Schumann, Robert (1810-1856)

ロバート シューマン「音楽者の家庭訓及び処世訓」K 生訳『音楽』第10巻第3号（大正8年3月）、5-16頁。

ロベルト シューマン「ベルリオの『ウェーバーリー』序楽」尾崎喜八訳『ラミュジカ』第3号（大正12年3月）、21-22頁。

藤木義輔「露西亞バレエ抄（六）」『音楽新潮』第1巻第9号（大正13年10月）、21-26頁。⁽¹⁶⁾

■リスト、フランツ Liszt, Franz (1811-86)

勝南氏「恋の音楽家 フランズ・リスト」『オペラ』第3巻第7号（大正10年7月）、44-46頁。

／勝南氏「恋の音楽家（一）フランズ・リスト（承前）」『オペラ』第3巻第9号（大正10年9月）、34-35頁。

清水潮三「文学者の瞳に映じたりスト」『音楽新潮』第1巻第2号（大正13年3月）、30-34頁。

関宥一「一夜の弟子 リストの話」『音楽新潮』第1巻第10号（大正13年11月）、35-39頁。

関宥一「お茶の客 リストの演奏会」『音楽新潮』第1巻第11号（大正13年12月）、33-38頁。

桂近乎「リストを繞る女性」『楽星』第2巻第12号（大正15年12月）、41-49頁。

■フロート、フリードリヒ Flotow, Friedrich (1812-83)

塚田左一「マルタ上演に就いて」『歌劇』第46号（大正13年1月）、35-37頁。

■ダルゴムイシスキー、アレクサンドル Dargomizhsky, Aleksandr (1813-1869)

中根弘「露西亞歌劇物語 悲歌劇『ルサルカ』（水の精）」『音楽新潮』第3巻第8号（大正15年8月）、32-37、29頁。

■ヴァーグナー、リヒャルト Wagner, Richard (1813-83)

作田哀江「歌劇歴史の梗概及びワグネル小観」『オペラ』第1巻第3号（大正8年6月）、30-31頁。

清見いと子「まるたん棒の寝言」『オペラ』第3巻第1号（大正10年1月）、36-39頁。⁽¹⁷⁾

蘭芝郎「オペラ略史（其の五）」『オペラ』第3巻第9号（大正10年9月）、22-25頁。⁽¹⁸⁾

立沢成孝「ワグナーその他」『オペラ』第4巻第1号（大正11年1月）、68-69頁。

石川欣一「独逸歌劇々場にてマイスタア、ジンガアを聴く」『歌劇』第34号（大正12年1月）、74-85頁。

森田久「音楽家列伝（壱）ワグネル」『歌劇』第34号（大正12年1月）、88-90頁。

安藤弘「ワグナーの仮面」『歌劇』第40号（大正12年7月）、2-7頁。

百瀬晋「ロッシーニとワグナーの会見 アルフレード・テストーニの戯曲から」『オペラ』第6巻第11号（大正13年11月）、24-29頁。

河村雅「リムスキイ・コルサコフとワグネル」『音楽新潮』第1巻第11号（大正13年12月）、2-7頁。

野村光一「ズィグフリードの印象」『音楽新潮』第2巻第3号（大正14年3月）、2-8頁。／野村

光一「ズィグフリードの印象（下）」『音楽新潮』第2巻第4号（大正14年4月）、23-27頁。

「ライブチヒ歌劇場の『パアジファル』」『音楽新潮』第2巻第8号（大正14年8月）、10-11頁。

■ヴェルディ, ジュゼッペ Verdi, Giuseppe (1813-1901)

渡平民「^{ラ・トラヴィアタ}椿姫 歌劇の梗概 (三)」『オペラ』第2巻第5号 (大正9年5月), 25-30頁.

柴笛四「ヴェルデイの嘆き」『オペラ』第3巻第6号 (大正10年6月), 52-53頁.

島愛二「金竜館上演雑評 リゴレット」『オペラ』第5巻第9号 (大正12年9月), 54-55頁.

寺川信「卑賤より身を起した近代の一大歌劇作家ギシツペ・ヴェルディの一生」『歌劇』第50号 (大正13年5月), 46-51頁.

村上一郎「大楽匠ヴェルデの遺跡」『音楽グラフ』第4巻第9号 (大正15年9月), 10-14頁.

大沼魯夫「ジユセツペ・ヴェルディ 生ひ立」『音楽グラフ』第4巻第10号 (大正15年10月), 9-12頁.

大沼魯夫「ジユセツペ・ヴェルディ 成年後の略伝と其の作品」『音楽グラフ』第4巻第11号 (大正15年11月), 8-11頁.

■ラロ, エドゥアール Lalo, Édouard (1823-1892)

門馬直衛「ヴァイオリン曲解説」『楽星』第2巻第2号 (大正15年2月), 27-34頁.⁽¹⁹⁾

伊東澄子「歌劇『イスの王』」『音楽新潮』第3巻第12号 (大正15年12月), 27-31頁.

■スメタナ, ベドルジフ Smetana, Bedřich (1824-1884)

栗飯原普「ベドリック・スメタナ 生誕一百年記念に当つて」『音楽新潮』第1巻第6号 (大正13年7月), 37-40頁.

徳永政太郎「歌劇梗概 喜歌劇 売られたる花嫁」『オペラ』第6巻第7号 (大正13年7月), 34-35頁.

■シュトラウス, ヨハン (子) Strauß, Johann (1825-1899)

堀内敬三「歌劇以上の喜歌劇『蝙蝠』」『音楽グラフ』第3巻第7号 (大正14年7月), 7-8頁.

■フォスター, スティーヴン Foster, Stephen (1826-1864)

小松平五郎「マイ オールド ケンタツキ ホームの作者『ステファン コリンズ フオスタア』」『音楽グラフ』第3巻第7号 (大正14年7月), 11-12頁.

■ブラームス, ヨハネス Brahms, Johannes (1833-97)

法月歌客「ブラームスの恋愛と結婚と」『オペラ』第4巻第3号 (大正11年3月), 24-27頁.

河上徹太郎「ひとりで踊るブラームス」『楽星』第2巻第4号 (大正15年4月), 21-22頁.

伊達愛「ハイデルベルヒにブラームス音楽祭を訪ふ」『音楽新潮』第3巻第9号 (大正15年9月), 36-44頁.

■サン＝サーンス, カミーユ Saint-Saëns, Camille (1835-1921)

チャールズ ヘンリー メルツァー「カミーユ サン＝サアンス」牛山充 [訳]『音楽』第13巻第5号 (大正11年5月), 7-12頁.

小松耕輔「サン・セエンスを国葬とせし日の思出」『音楽新潮』第1巻第5号 (大正13年6月), 8-13頁.

「サン・サンスの随筆から」平岡俊一郎 [訳]『音楽新潮』第2巻第7号 (大正14年7月), 37-40頁.

堀内敬三「仏蘭西名曲解説（その一）」『楽星』第1巻第3号（大正14年9月），14-18頁。⁽¹⁴⁾

■バラキレフ，ミリー Balakirev, Mily (1837-1910)

大田黒元雄「近代楽の作家（二）」『音楽』第5巻第6号（大正3年6月），29-33頁。⁽²⁰⁾

藤木義輔「露西亜バレエ抄（五）」『音楽新潮』第1巻第8号（大正13年9月），8-14頁。⁽²¹⁾

■ブルッフ，マックス Bruch, Max (1838-1920)

門馬直衛「ヴァイオリン曲解説（III）」『楽星』第2巻第3号（大正15年3月），18-28頁。⁽²²⁾

■ビゼー，ジョルジュ Bizet, Georges (1838-75)

佐藤昌「ニーチェとビゼー」『音楽新潮』第2巻第7号（大正14年7月），11-14頁。

小浜勇「楽聖ビゼエの五十年忌」『音楽グラフ』第3巻第8号（大正14年8月），6-7頁。

高木和夫「雑話『カルメン』」『歌劇』第66号（大正14年9月），18-20頁。

■ムソルグスキー，モデスト Musorgsky, Modest (1839-81)

寺川信「歌劇名曲物語（二）」『歌劇』第27号（大正11年6月），48-50頁。⁽²³⁾

小生夢坊「あさましい人間の野心が生んだ 悲劇 ボリス・ゴドゥノフ」『オペラ』第4巻第11号（大正11年11月），34-39頁。

カルヴオコレシ「ムソルグスキーの生涯と性格」河原宏訳『ラミュジカ』第2号（大正12年2月），7-9頁。／カルヴォコレシ「ムソルグスキーの生涯と性格（承前）」河原宏訳『ラミュジカ』第3号（大正12年3月），3-6頁。

艸路「本号挿入の楽譜に就て」『ラミュジカ』第3号（大正12年3月），26-28頁。⁽²⁴⁾

カアト・シンドラ「ムソールグスキイ」藤木義輔[訳]『音楽新潮』第3巻第1号（大正15年1月），16-19頁。／カアト・シンドラ「ムソールグスキイ（下）」[藤木義輔訳]『音楽新潮』第3巻第2号（大正15年2月），31-33頁。

■チャイコフスキー，ピョートル Tchaikovsky, Pyotr (1840-93)

寺川信「歌劇名曲物語（一）」『歌劇』第26号（大正11年5月），24-26頁。⁽¹²⁾

柿沼太郎「チャイコフスキイの歌劇」『音楽グラフ』第1巻第4号（大正12年8月），2-3頁。／柿沼太郎「チャイコフスキイの歌劇（つゞき）」『音楽グラフ』第1巻第5号（大正12年9月），4-5頁。

柿沼太郎「チャイコフスキイの見たグリーグ」『音楽グラフ』第2巻第8号（大正13年11月），2-3頁。

中根弘「悲歌劇『マゼツパ』チャイコフスキーの代表作」『音楽新潮』第3巻第1号（大正15年1月），7-15頁。

フィンデイゼン「チャイコフスキー博物館の記」村上[一郎訳]『音楽グラフ』第4巻第5号（大正15年5月），10-13頁。

藤木義輔「白鳥湖 ロシア・バレエ」『音楽新潮』第3巻第8号（大正15年8月），6-8，12頁。

■ボーイト，アッリーゴ Boito, Arrigo (1842-1918)

青木千代吉「ボイトオの遺作『ネロオネ』の上演」『音楽新潮』第1巻第8号（大正13年9月），22-25頁。／青木千代吉「ボイトオの遺作『ネロオネ』の上演（下）」『音楽新潮』第1

巻第9号 (大正13年10月), 14-20頁.

■グリーグ, エドヴァルド Grieg, Edvard (1843-1907)

清水潮三「田園のグリュック」『音楽新潮』第1巻第3号 (大正13年4月), 31-34頁.

柿沼太郎「チャイコフスキの見たグリーグ」『音楽グラフ』第2巻第8号 (大正13年11月), 2-3頁.

藤井夏人「晩年のグリュック 彼の『イ短調コンチェルト』とグレインジャーのこと」『音楽新潮』第2巻第6号 (大正14年6月), 24-29, 9頁.

岡本五郎「グリュックの『歌の家』」『音楽新潮』第3巻第8号 (大正15年8月), 30-31頁.

■リムスキー=コルサコフ, ニコライ Rimsky-Korsakov, Nikolay (1844-1908)

寺川信「歌劇名曲物語 (二)」『歌劇』第27号 (大正11年6月), 48-50頁.⁽²³⁾

河村雅「リムスキー・コルサコフとワグネル」『音楽新潮』第1巻第11号 (大正13年12月), 2-7頁.

久呂川文三「初演されたリムスキー・コルサコフの歌劇」『音楽新潮』第3巻第4号 (大正15年4月), 24-26頁.

■フォーレ, ガブリエル Fauré, Gabriel (1845-1924)

アーロン・コプラン「ガブリエル・フォーレ (上) 作品全体に就て」[柿沼太郎訳]『音楽新潮』

第2巻第10号 (大正14年10月), 8-14頁. / アーロン・コプラン「ガブリエル・フォーレ

(下) 全作品に就て」柿沼太郎[訳]『音楽新潮』第2巻第11号 (大正14年11月), 16-22頁.

藤木義輔「人としてのガブリエル・フォーレ」『音楽新潮』第3巻第11号 (大正15年11月), 10-14頁.

柿沼太郎「ガブリエル・フォーレの作品」『音楽新潮』第3巻第11号 (大正15年11月), 15-19頁.

山田辰弥「フォーレ年譜」『音楽新潮』第3巻第11号 (大正15年11月), 20-21頁.

■モシュコフスキ, モーリツ Moszkowski, Moritz (1854-1925)

柿沼太郎「モスクウスキのこと」『音楽グラフ』第3巻第6号 (大正14年6月), 13-14頁.

モリツ・モスクウスキー「我が処女作」『音楽グラフ』第4巻第1号 (大正15年1月), 12-13頁.

■フンパーディンク, エンゲルベルト Humperdinck, Engelbert (1854-1921)

渡平民「御伽歌劇ヘンゼルとグレーテル 歌劇梗概 (二)」『オペラ』第2巻第3号 (大正9年3月), 72-75頁.

安濃井益「フムパーディンクの『ヘンゼルとグレーテル』の音楽に就て」『歌劇』第13号 (大正10年3月), 2-7頁.

■レオンカヴァッロ, ルッジェーロ Leoncavallo, Ruggiero (1857-1919)

レオンカヴロ曲「パリアツチ (前号続き)」猊与太平意訳『オペラ』第3巻第1号 (大正10年1月), 78-79頁. / レオンカヴロ曲「パリアツチ (前号続き)」猊与平意訳『オペラ』第3巻第2号 (大正10年2月), 64-65頁.

森岡夢夫「金竜館上演 道化師断評」『オペラ』第5巻第7号（大正12年7月），58-59頁。

■プッチーニ、ジャコモ Puccini, Giacomo (1858-1924)

プッチーニ作曲「大歌劇 お蝶夫人」^{マダム・バターフライ}西本朝春訳『オペラ』第3巻第5号（大正10年5月），52-59頁。／プッチーニ作曲「大歌劇 お蝶夫人」^{マダム・バターフライ}（承前）西本朝春訳詞『オペラ』第3巻第6号（大正10年6月），68-73頁。／プッチーニ作曲「大歌劇 お蝶夫人」^{マダム・バターフライ}（承前）西本朝春訳詞『オペラ』第3巻第7号（大正10年7月），78-81，76頁。／プッチーニ作曲「大歌劇 お蝶夫人」^{マダム・バターフライ}（承前）西本朝春訳詞『オペラ』第3巻第9号（大正10年9月），64-68頁。／プッチーニ作曲「大歌劇脚本 お蝶夫人」^{マダム・バターフライ}（承前）西本朝春訳詞『オペラ』第4巻第1号（大正11年1月），102-106頁。／プッチーニ作曲「大歌劇脚本 お蝶夫人」^{マダム・バターフライ}（承前）西本朝春訳『オペラ』第4巻第4号（大正11年4月），69-73頁。／プッチーニ作曲「大歌劇脚本 お蝶夫人」^{マダム・バターフライ}（完結）西本朝春訳詞『オペラ』第4巻第5号（大正11年5月），67-69頁。

徳永政太郎「恋愛を骨子としたプッチーニ「ママ」の三部曲」『オペラ』第4巻第3号（大正11年3月），50-51，45頁。

寺川信「歌劇名曲物語（三）」『歌劇』第28号（大正11年7月），36-37頁。⁽²⁵⁾

「故プッチーニの思ひ出」『音楽新潮』第2巻第3号（大正14年3月），14-15頁。

梅津勝男「プッチーニの遺作 チューランドットに就て」『音楽グラフ』第4巻第11号（大正15年11月），14-16頁。

■イッポリトフ＝イヴァーノフ、ミハイロ Ippolitov-Ivanov, Mikhail (1859-1935)

中根弘「露国楽壇の二大長老（一）国立大劇場の老指揮者 イッポリトフ・イヴァーノフ」『音楽新潮』第2巻第7号（大正14年7月），2-7頁。

■ヴォルフ、フーゴー Wolf, Hugo (1860-1903)

広瀬将「フウゴオ・ウオルフの生涯」『楽星』第2巻第10号（大正15年10月），1-6頁。／広瀬将「フウゴオ・ウオルフの生涯（二）」『楽星』第2巻第12号（大正15年12月），8-12頁。

■パデレフスキ、イグナツィ・ヤン Paderewski, Ignacy Jan (1860-1941)

村上一郎「パデレフスキ礼賛 芸術家、政治家、愛国者として」『音楽グラフ』第4巻第11号（大正15年11月），6-8頁。

■マクダウェル、エドワード MacDowell, Edward (1860-1908)

「マクドウェル村」『音楽グラフ』第3巻第6号（大正14年6月），16-17頁。

伊庭孝「MAC DOWELL と其の作品との研究（其の一）」『楽星』第1巻第4号（大正14年10月），18-23頁。／伊庭孝「Mac Dowell と其の作品との研究（その二）」『楽星』第1巻第5号（大正14年11月），10-14頁。／伊庭孝「Mac Dowell と其の作品との研究（その三）」『楽星』第2巻第1号（大正15年1月），18-23頁。／伊庭孝「Mac Dowell と其の作品との研究（その四）」『楽星』第2巻第2号（大正15年2月），5-9頁。／伊庭孝「Mac Dowell と其の作品との研究（その五）」『楽星』第2巻第3号（大正15年3月），14-17頁。／伊庭孝「Mac Dowell と其の作品との研究（その六）」『楽星』第2巻第4号（大正15年4月），7-12頁。／伊庭孝「Mac Dowell と其の作品との研究（その七）」『楽星』第2巻第7号（大

正 15 年 7 月), 23-28 頁. / 伊庭孝「Mac Dowell と其の作品との研究 (その八)」『楽星』第 2 巻第 10 号 (大正 15 年 10 月), 7-9 頁. / 伊庭孝「Mac Dowell と其の作品との研究 (その九)」『楽星』第 2 巻第 11 号 (大正 15 年 11 月), 6-12 頁.

村上一郎「エドワード・マクドウエル (其一)」『音楽グラフ』第 4 巻第 2 号 (大正 15 年 2 月), 8-11 頁. / 村上一郎「エドワード・マクドウエル (其二)」『音楽グラフ』第 4 巻第 5 号 (大正 15 年 5 月), 3-6 頁.

■ドビュッシー, クロード Debussy, Claude (1862-1918)

藤木義輔「露西亜バレエ抄 (三)」『音楽新潮』第 1 巻第 5 号 (大正 13 年 6 月), 18-23 頁.⁽²⁶⁾

岩間太郎「仏蘭西音楽雑話 (一) クロード・デビュツツシーの事 (A)」『オペラ』第 6 巻第 8 号 (大正 13 年 8 月), 38-39 頁.

柿沼太郎「クロウド・ドビュッシー (上) 人及び芸術の輪郭」『音楽新潮』第 2 巻第 7 号 (大正 14 年 7 月), 30-36 頁. / 柿沼太郎「クロウド・ドビュッシー (下) 人及び芸術の輪郭」『音楽新潮』第 2 巻第 8 号 (大正 14 年 8 月), 34-39 頁.

「スカラ座のドビュッシーその他の歌劇」『音楽新潮』第 3 巻第 6 号 (大正 15 年 6 月), 20-22 頁.

伊東澄子「ペレアスとメリザンド」『音楽新潮』第 3 巻第 6 号 (大正 15 年 6 月), 38-41 頁.

メタクサ伯夫人「ドビュッシーの『プレリユード』から」前田鉄之助訳『音楽新潮』第 3 巻第 8 号 (大正 15 年 8 月), 13-18 頁.

ロメン ローラン「デビュツツシー論『ペレアとメリザンド』」広瀬将訳『楽星』第 2 巻第 8 号 (大正 15 年 8 月), 33-40 頁.

■マスカーニ, ピエトロ Mascagni, Pietro (1863-1945)

門馬直衛「『カヴァレリアルスチカナ』の話 近代欧劇解説 (その一)」『楽譜クラブ』第 71 号 (大正 10 年 10 月), 14-16 頁. / 門馬直衛「『カヴァレリアルスチカナ』の話 近代歌劇解説 (其の二)」『楽譜クラブ』第 72 号 (大正 10 年 11 月), 19-22 頁. / 門馬直衛「カヴァレリアルスチカナの話 近代歌劇解説 (其の三)」『楽譜クラブ』第 73 号 (大正 10 年 12 月), 19-21 頁.

青柳有美「マスカーニの新作『小マラー』」『歌劇』第 22 号 (大正 11 年 1 月), 26-29 頁.

寺川信「歌劇名曲物語 (三)」『歌劇』第 28 号 (大正 11 年 7 月), 36-37 頁.⁽²⁵⁾

高木和夫「ラ・スカラ座で見た歌劇『イリス』の舞台」『歌劇』第 60 号 (大正 14 年 3 月), 18-20 頁.

■シュトラウス, リヒャルト Strauss, Richard (1864-1949)

山本直忠「ライブチツヒのシュトラウス週間」『楽星』第 2 巻第 9 号 (大正 15 年 9 月), 42-44 頁.

■グラズノフ, アレクサンドル Glazunov, Aleksandr (1865-1936)

中根弘「露国楽壇の二大長老 (二) レーニングラードの老作曲家 アレクサンドル・グラズノフ」『音楽新潮』第 2 巻第 10 号 (大正 14 年 10 月), 2-6 頁.

■シベリウス, ジャン Sibelius, Jean (1865-1957)

柿沼太郎「フィンランドの巨匠ジャン・シベリウス」『音楽新潮』第 3 巻第 2 号 (大正 15 年 2 月), 15-19 頁.

■ブゾーニ, フェルッチョ Busoni, Ferruccio (1866-1924)

野村光一「ブゾーニを憶ふ」『音楽新潮』第1巻第10号(大正13年11月), 8-13頁.

■サティ, エリック Satie, Erik (1866-1925)

永田竜雄「エリック・サティの動物と音楽論(上) 斜雨荘漫筆」『音楽新潮』第1巻第6号(大正13年7月), 33-36頁. / 永田竜雄「エリック・サティの動物と音楽論(下) 斜雨荘漫筆」『音楽新潮』第1巻第7号(大正13年8月), 31-34, 38頁.

小松耕輔「現代音楽の先駆者 エリック・サティ」『音楽新潮』第2巻第6号(大正14年6月), 2-7頁. / 小松耕輔「現代音楽の先駆者 エリック・サティ(二)」『音楽新潮』第2巻第7号(大正14年7月), 24-29頁. / 小松耕輔「現代音楽の先駆者 エリック・サティ(三)」『音楽新潮』第2巻第8号(大正14年8月), 24-29頁.

中野楽人「皮肉の作曲家エリック・サティ逝く」『音楽新潮』第2巻第9号(大正14年9月), 37-39頁.

■プフィツナー, ハンス Pfitzner, Hans (1869-1949)

柿沼太郎「ハンス・フィツナアの歌劇」『音楽新潮』第3巻第6号(大正15年6月), 32-37頁.

■ゴドフスキー, レオポルド Godowsky, Leopold (1870-1938)

鈴木賢之進「ゴドフスキー論(特に日本の洋琴家に贈る)」『音楽新潮』第1巻第9号(大正13年10月), 6-10頁.

■スクリャービン, アレクサンドル Skryabin, Aleksandr (1872-1915)

兼常清佐「名曲の印象 一つ二つ」『音楽グラフ』第4巻第6号(大正15年6月), 2-3頁.⁽²⁷⁾
/ 兼常清佐「名曲の印象 一つ二つ(前の続)」『音楽グラフ』第4巻第7号(大正15年7月), 5-8頁.⁽²⁸⁾

中山徳三「スクリャービンのピアノ・ソナタに就て」『音楽新潮』第3巻第12号(大正15年12月), 15-17頁.

■ヴォーン・ウィリアムズ, レイフ Vaughan Williams, Ralph (1872-1958)

柿沼太郎「ロンドン・スィムフォニイの作曲者 ヴォーアン・ウィリアムス」『音楽新潮』第3巻第10号(大正15年10月), 2-6頁.

■レーガー, マックス Reger, Max (1873-1916)

村上一郎「バッハの後継者と言はる、マックス・レーガー」『音楽グラフ』第3巻第10号(大正14年10月), 4-6頁.

■チェレプニン, ニコライ Tcherepnin, Nikolay (1873-1945)

藤木義輔「露西亞バレエ抄(八)」『音楽新潮』第2巻第2号(大正14年2月), 11-16, 26頁.⁽²⁹⁾
藤木義輔「露西亞バレエ抄(九)」『音楽新潮』第2巻第3号(大正14年3月), 18-24頁.⁽³⁰⁾

■クーセヴィツキー, セルゲイ Koussevitzky, Sergey (1874-1951)

いわむら生「一九二六年度、クーセヴィツキー交響楽音楽会を聴く(上)」『音楽新潮』第3巻第10号(大正15年10月), 41-47頁. / いわむら生「一九二六年度、クーセヴィツキー交響楽音楽会を聴く(中)」『音楽新潮』第3巻第11号(大正15年11月), 43-48頁. / 岩村英武

「一九二六年度、クーセヴィツキー交響楽音楽会を聴く (下)」『音楽新潮』第3巻第12号 (大正15年12月), 42-48頁.

■アーン, レナルド Hahn, Reynaldo (1874-1947)

藤木義輔「露西亜バレエ抄 (二)」『音楽新潮』第1巻第4号 (大正13年5月), 16-22頁.⁽³¹⁾

■シェーンベルク, アルノルト Schönberg, Arnold (1874-1951)

小泉拾「シェーンベルヒの音楽 (一)」『音楽新潮』第1巻第6号 (大正13年7月), 8-11頁. /

小泉拾「シェーンベルヒの音楽 (二)」『音楽新潮』第1巻第8号 (大正13年9月), 16-19

頁. / 小泉拾「シェーンベルヒの音楽 (三)」『音楽新潮』第1巻第9号 (大正13年10月),

36-39, 20頁. / 小泉拾「シェーンベルヒの音楽 (四)」『音楽新潮』第1巻第11号 (大正13

年12月), 22-27頁.

■ホルスト, グスターヴ Holst, Gustav (1874-1934)

柿沼太郎「ガスターヴ・ホルストのこと」『音楽新潮』第2巻第12号 (大正14年12月), 14-19頁.

■クライスラー, フリッツ Kreisler, Fritz (1875-1962)

牛山充「クライスラー」『音楽グラフ』第1巻第1号 (大正12年5月), 16-17頁.

クライスラー「クライスラーの芸術観」山形英夫 [訳]『音楽新潮』第1巻第7号 (大正13年8

月), 12-16頁. / クライスラー「クライスラー芸術観 (下)」山形英夫 [訳]『音楽新潮』第

1巻第8号 (大正13年9月), 28-32, 14頁.

門馬直衛「ヴァイオリン曲解説」『楽星』第2巻第1号 (大正15年1月), 33-39頁.⁽³²⁾

■ラヴェル, モーリス Ravel, Maurice (1875-1937)

アンリ・ジルマルシェツクス「ラヴェルのピアノの技巧について (上)」小松耕輔訳『音楽新

潮』第2巻第8号 (大正14年8月), 6-9頁. / ジルマルシェツクス「ラヴェルのピアノの

技巧について (下)」小松耕輔訳『音楽新潮』第2巻第9号 (大正14年9月), 28-32頁.

柿沼太郎「現代音楽の三大作曲家」『音楽グラフ』第3巻第9号 (大正14年9月), 2-3頁.⁽³³⁾

小松耕輔「モオリス・ラヴェルの芸術 (一)」『音楽新潮』第3巻第1号 (大正15年1月), 2-6

頁. / 小松耕輔「モオリス・ラヴェルの芸術 (二)」『音楽新潮』第3巻第2号 (大正15年

2月), 22-25頁. / 小松耕輔「モオリス・ラヴェルの芸術 (三)」『音楽新潮』第3巻第4号

(大正15年4月), 30-36頁.

伊東澄子「ラヴェルの喜歌劇『西班牙の時』」『音楽新潮』第3巻第11号 (大正15年11月),

22-26頁.

■アルファード, フランコ Alfano, Franco (1875-1954)

寺川信「歌劇名曲物語 承前」『歌劇』第29号 (大正11年8月), 40-42頁.⁽³⁴⁾

■ファリャ, マヌエル・デ Falla, Manuel de (1876-1946)

柿沼太郎「スペインの作曲家 マヌエル・ド・ファル [ルは小文字] ラ 新進作曲家紹介 (二)」

『音楽新潮』第2巻第3号 (大正14年3月), 33-38頁.

■カザルス, パブロ Casals, Pablo (1876-1973)

パブロ・カザルス「セロを研究する人達へ」『音楽新潮』第2巻第8号(大正14年8月), 14-19頁.

■レスピーギ, オットリーノ Respighi, Ottorino (1879-1936)

深谷甫「羅馬の松樹」『楽星』第2巻第6号(大正15年6月), 37-38頁.

■スコット, シリル Scott, Cyril (1879-1970)

野村光一「シリル・スコットの隣家」『音楽新潮』第2巻第9号(大正14年9月), 2-9頁.

■バルトーク, ベーラ Bartók, Béla (1881-1945)

柿沼太郎「現代音楽の三大作曲家」『音楽グラフ』第3巻第9号(大正14年9月), 2-3頁.⁽³³⁾

柿沼太郎「ベラ・バルトークと第二弦楽四重奏に就て」『音楽新潮』第3巻第5号(大正15年5月), 7-9, 23頁.

■ミャスコフスキー, ニコライ Myaskovsky, Nikolay (1881-1950)

河村雅「ソヴェート・ロシヤの作曲家 ミャスコヴスキイのこと」『音楽新潮』第2巻第4号(大正14年4月), 2-7頁.

ベライエフ「ニコライ・ミャスコヴスキイ」藤木義輔訳『音楽新潮』第3巻第6号(大正15年6月), 26-31, 48頁.

■マリピエロ, ジャン・フランチェスコ Malipiero, Gian Francesco (1882-1973)

柿沼太郎「伊太利のフランチェスコ・マリピエロ」『音楽新潮』第2巻第9号(大正14年9月), 21-27頁.

■グレインジャー, パーシー Grainger, Percy (1882-1961)

マーチャリー ストッキング「パーシー グレンヂャーの印象」牛山生[訳]『音楽』第8巻第9号(大正6年9月), 64-66頁.

増沢健美「作曲家としてのグレインヂャー」『音楽新潮』第1巻第2号(大正13年3月), 23-27頁.

パアシイ・グレンヂャア「若き音楽家達に」清水潮三訳『音楽新潮』第1巻第8号(大正13年9月), 2-7頁.

藤井夏人「晩年のグリーク 彼の『イ短調コンチェルト』とグレインヂャーのこと」『音楽新潮』第2巻第6号(大正14年6月), 24-29, 9頁.

■ストラヴィンスキー, イーゴリ Stravinsky, Igor (1882-1971)

秋田春夫「ストラヴィンスキーに関する考察」『オペラ』第3巻第9号(大正10年9月), 58-59頁.

藤木義輔「露西亞バレエ抄(一)」『音楽新潮』第1巻第2号(大正13年3月), 16-22頁.⁽³⁵⁾

大関柊郎「ストラヴィンスキーの熱弁」『歌劇』第52号(大正13年7月), 14-17頁.

柿沼太郎「現代音楽の代表的作家(一)」『音楽新潮』第1巻第8号(大正13年9月), 33-38頁.⁽³⁶⁾

牛山充「音楽に於ける支那趣味(下)」『音楽グラフ』第2巻第6号(大正13年9月), 4-5頁.⁽³⁷⁾

藤木義輔「露西亜バレエ抄 (七)」『音楽新潮』第1巻第11号 (大正13年12月), 14-19頁.⁽³⁸⁾

牛山充「最近のストキラヴونسキー [ママ]」『音楽グラフ』第3巻第5号 (大正14年5月), 4-5頁.

■シマノフスキ, カロル Szymanowski, Karol (1882-1937)

柿沼太郎「若きポーランドの代表者 カロル・シマノフスキ (上)」『音楽新潮』第3巻第4号 (大正15年4月), 2-7, 43頁. / 柿沼太郎「若きポーランドの代表者 カロル・シマノフスキ (下)」『音楽新潮』第3巻第5号 (大正15年5月), 31-38頁.

■カゼッラ, アルフレード Casella, Alfredo (1883-1947)

柿沼太郎「若きイタリアを代表するアルフレード・カセルラ」『音楽新潮』第2巻第4号 (大正14年4月), 11-17頁.

■バックス, アーノルド Bax, Arnold (1883-1953)

柿沼太郎「現代音楽の三大作曲家」『音楽グラフ』第3巻第9号 (大正14年9月), 2-3頁.⁽³³⁾

■プロコフィエフ, セルゲイ Prokofiev, Sergey (1891-1953)

牛山充「亜米利加に於けるプロコフィエフ」『音楽』第11巻第9号 (大正9年9月), 28-33頁.

寺川信「歌劇名曲物語 承前」『歌劇』第29号 (大正11年8月), 40-42頁.⁽³⁴⁾

■オネゲル, アルテュール Honegger, Arthur (1892-1955)

小松耕輔「仏蘭西楽壇の巨匠 オネッガアの音楽」『音楽新潮』第2巻第1号 (大正14年1月), 2-7頁. / 小松耕輔「仏蘭西楽壇の巨匠 オネッガア氏の音楽 (続)」『音楽新潮』第2巻第2号 (大正14年2月), 6-10頁. / 小松耕輔「仏蘭西楽壇の巨匠 オネッガア氏の音楽」『音楽新潮』第2巻第3号 (大正14年3月), 9-13頁.

■コルンゴルト, エーリヒ Korngold, Erich (1897-1957)

こすもす「近読中より——エーリッヒ コーンゴールド」『音楽』第4巻第11号 (大正2年11月), 49-50頁.

■リエーティ, ヴィットーリオ Rieti, Vittorio (1898-1994)

山田辰弥「ロシア舞踊の新曲二つ」『音楽新潮』第3巻第8号 (大正15年8月), 27-29頁.⁽³⁹⁾

■プーランク, フランシス Poulenc, Francis (1899-1963)

柿沼太郎「仏蘭西作曲界の鬼才 フランシス・プウランク」『音楽新潮』第2巻第6号 (大正14年6月), 18-22頁.

■ランバート, コンスタント Lambert, Constant (1905-1951)

山田辰弥「ロシア舞踊の新曲二つ」『音楽新潮』第3巻第8号 (大正15年8月), 27-29頁.⁽³⁹⁾

■註

- (1) 『音楽』誌を除く13誌。『音楽』誌に関しては別稿 (松村 2018b) を参照のこと。
- (2) 第61-66号は武蔵野音楽大学図書館に所蔵されている。
- (3) 武蔵野音楽大学図書館の所蔵分を調査した。
- (4) 第81号までは復刻版 (雄松堂出版刊) が刊行されており、調査にあたってはこれを用いた。
- (5) 日本近代音楽館の所蔵分を調査した。

- (6) 『音楽』誌に含まれる本調査の対象記事は、大部分が別稿（松村 2018b）に収録されている。
- (7) 大正期のものは、全て日本近代音楽館に所蔵されている。
- (8) ベートーヴェンの特集号（第3巻第3号）が発行されている。
- (9) この範囲のほぼ全ての号（第3巻第11号を除く）が早稲田大学演劇博物館図書室に所蔵されている。
- (10) この範囲の全号が日本近代文学館に所蔵されている。
- (11) ベートーヴェンの《コリオラン序曲》、《献堂式序曲》、ウェーバーの《魔弾の射手序曲》、およびロッシェニの《ウィリアム・テル》に関する記事。
- (12) オペールの《フラ・ディアヴォロ》とチャイコフスキーの《スペードの女王》に関する記事。
- (13) ヴェーバーの《舞踏への勧誘》を音楽としたロシア・バレエ団の作品に関する記事。
- (14) ベルリオーズの《幻想交響曲》とサン＝サーンスの《アルジェリア組曲》に関する記事。
- (15) 《無言歌集 第5巻》作品62（1844刊）に含まれるイ短調の舟歌に関する記事。
- (16) シューマンの《謝肉祭》を音楽としたロシア・バレエ団の作品に関する記事。
- (17) バイロイトでのヴァーグナーの活動を主題とする記事。
- (18) ヴァーグナーの作品に関する記事。
- (19) 《スペイン交響曲》に関する記事。
- (20) バラキレフに関する記事。
- (21) 《タマラ》を音楽としたロシア・バレエ団の作品に関する記事。
- (22) 《コル・ニドライ》とヴァイオリン協奏曲（特に作品26）に関する記事。
- (23) ムソルグスキーの《ボリス・ゴドゥノフ》とリムスキー＝コルサコフの《金鶏》に関する記事。
- (24) 〈テュイルリー〉（《展覧会の絵》から）と〈かぶと虫〉（《子ども部屋》から）に関する記事。
- (25) プッチーニの《蝶々夫人》とマスカーニの《イリス》に関する記事。
- (26) 《牧神の午後への前奏曲》を音楽としたロシア・バレエ団の作品に関する記事。
- (27) 《プロメテウス——火の詩》に関する記事。
- (28) 《法悦の詩》に関する記事。
- (29) チェレプニンの《アルミダの館》に関する記事。
- (30) チェレプニンの《ナルシスとエコー》に関する記事。
- (31) アーンの《青い神》に関する記事。
- (32) クライスラーの伝記と作品解説。
- (33) ラヴェル、バルトーク、バックスに関する記事。
- (34) アルファードの《シャクンタラー物語》とプロコフィエフの《3つのオレンジへの恋》に関する記事。
- (35) 《火の鳥》に関する記事。
- (36) ストラヴィンスキーに関する記事。
- (37) 《小夜鳴き鳥》に関する記事。
- (38) 《春の祭典》に関する記事。
- (39) リエーティの《バラバウ》とランバートの《ロメオとジュリエット》に関する記事。